1　つきはなせば

つきはなせば　すぐそこでは
水は急に早く流れてゐるのだから
木の葉のやうに流れて行ってしまふだらう
着物のすそのみだれが　もみぢの色だ

つきはなしてしまへば　いいのだ
その女の肩の厚みからは
油がにじんでゐる
半分ひらいたくちびるからは　犬の歯だ

冬の朝はしづかだ
冬はしづかだ
最後に　お前を拝見しよう

俺は自分がお前かと思つてしまふよ
俺だつたら　目をあけて
滝つぼに落ちて行くね

2　両手を

両手をひろげますと　両手の上に
人が乗つてゐるのです
歩きますと　足の所に
人が落ちて来るのです

泣き叫び
遠くから一人の人が
石のやうに
飛んで来るのです
目をつぶれば俺が
外に出て行つてしまひさうなので
目をあければ

両手の上に人が乗つてゐるのです
別の一人と別の一人とぶつかり
俺の上に落ちて来るのです

3　雪の山が

雪の山がそびえ立つてゐる
俺は立ちどまつた
「おお　山の向ふではがやがやしてゐる
人間のからだの音がする」

俺には俺の声が岩のやうに感じた
ちらり　ちらり
雪がふりかかつた
膝を折つて　しばらく考へてゐた

「小さい盃の中で白い光をしづめてゐる
この水は銀の水」
その夜に　俺は見た　俺が踊つてゐた

足早にそこに近づいてくる俺を意識して
くるり　くるり
一人で俺は踊つてゐた